

地域特産品を開発せよ

くホクホク美味しいかぼちゃ「ニューなかやま」の開発く

美味しく日持ちの良い在来種のかぼちゃを、栽培しやすく品質の良いものにするために、一三年の歳月をかけて品種改良した「ニューなかやま」開発プロジェクトについて紹介します。

■美味しく日持ちの良い在来種

「中山かぼちゃ」は、戦後、北海道からの開拓者によって那須町に持ち込まれ、そこから烏山町の中山地区にもたらされ、この地で自家採種によって大切に保存されてきた在来種であった。地名に由来して「中山かぼちゃ」の通称で、美味しく、日持ちの良いかぼちゃとして作付けされ、昭和五十年代には、烏山町農協婦人部が地域興しの一貫として、栽培と加工品の開発に取り組んでいた。

■何とか地域特産品に

烏山町農協の堀江（当時係長）と安藤（当時生活指導員）は、「中山かぼちゃ」を特産品として育成しようとする力を入れていたが、果型や果色が揃わない上、果実の着果節位が高く成りが遅いため、収量が上がらないことで困り果てていた。

そこで、烏山農業改良普及所とおして専門技術員の斎藤一雄に相談したところ、農業試験場黒磯分場を紹介された。昭和六十二年のある日、かぼちゃを担当していた室井栄一（現農試園芸技術部長）を訪ね、なんとか増収技術を検討して欲しいと懇願した。

その訪問の後日、斎藤の後押しもあって室井は現地調査を行い、本来の「中山カボチャ」と見られた4個の果実を譲り受けて、昭和六十三年から黒磯分場内で試作を開始した。

■立ちはだかる壁

普通、かぼちゃの第一雌花は十〜一五節に着生するが、「中山かぼちゃ」の場合三〇節以上と高く、一つの果のみの収穫であるため、増収技術としては、雌花着生節位の低下が重要と考えられた。そこで、室井が目を付けたのが、植物成長調節剤（エスレル）を使って着果節位を下



写真1 烏山町における栽培状況

げることを考えた。

試験の結果、エスレル液剤の散布により、見事に節位が低下し、増収することが確かめられた。

しかし、この技術の前に立ちはだかったのは、農薬取締法の登録の壁であった。中山カボチャへの登録拡大は、当時一〇ヘクタールにも満たない栽培面積から考えて、数億円を要する登録までの費用に農薬会社が首を立てに振ることは到底考えられなかった。やむなくこの技術は日の目をみることなく断念せざるを得なかった。

■優良系統選抜を開始

一方、栽培法試験と同時に優良系統選抜も細々ながら開始した。導入された系統は果型がハート型やラグビーボール型のもの、また黒緑色や橙色の果色の果実もあり様々な系統が混在していた。

このため、斉一な系統を選抜する必要があった。烏山町農協の堀江とのやりとりの中で選抜目標を①果型はハート型の大きい果実、②果色は黒緑色、③葉色はシルバーのかかった淡緑色、④低節位雌花着生系統



写真2 ニューなかやまの果実

とした。

この①～③の目標は、意外と早い時期に達成できそうであったが、最後に残った④は、なかなか現地の要望に応えられるような系統の選抜は進まなかった。しかし、何とか平成三年に四次選抜で雌花低節位着生の有望な五系統まで選抜することができた。

■苦節一三年、選抜への道

その後、平成四年から平成七年までの四年間は、室井の異動により系統維持が細々と行われていたのみで、優良系統選抜はこれで終了かと思われた。

しかし、平成七年に再度、烏山町農協から烏山農業改良普及所を通

じ、研究要望があり、平成八年から本場野菜部で選抜を再開することとした。

野菜部の技師土屋久子と主任研究員本島俊明は、黒磯分場で行ってきた四次選抜五系統に加え、現地からさらに有望な系統を収集し、優良系統の選抜に取りかかった。二年間の選抜により、六次選抜から三系統、新たな二次選抜から六系統の優良系統を見いだした。

■「ニューなかやま」誕生

平成一〇年からは再度、黒磯分場の手に委ねられることになり、主任研究員矢田部健一は、九系統から六系統に絞り込み、更に二年間の選抜を経て、育種目標になかった有望な一系統を選抜した。

平成一三年三月に、「ニューなかやま」として那須南農業協同組合と共同で品種登録の出願申請を行った。

「ニューなかやま」の第一雌花着生節位は一～二三節と在来系統の約二〇節に比べ低く、第一雌花の着果性は良好であり、平均一果重は一・五キログラム前後で、果形は紡

錘形、果皮は黒緑色で、果肉は橙黄色である。肉質は粉質でホクホクして食感が良いと評判であった。

昭和六三年の取り組み開始から一三年の歳月をかけて生み出された「ニューなかやま」は、現在、地域特産品として約八ヘクタール作付けされており、今、溢れる太陽光のもとすくすくと生育する姿が見られている。

新品種「ニューなかやま」の開発は、平成一五年一二月、地域の発展に寄与したことが評価され、烏山町長、那須南農業協同組合長ならびに同中山かぼちや部会長より感謝状を受けた。



写真3 感謝状を受け取る分場長古口(右)と矢田部(左)

(敬称略)
〔農業試験場〕